

— 企画展報告 —

企画展「大船・垣ノ島遺跡と世界遺産」

令和3年度は、企画展「大船・垣ノ島遺跡と世界遺産」を開催しました。函館市の大船遺跡・垣ノ島遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、イコモスによる登録勧告を受け、世界遺産登録への期待が高まるなかで、それぞれの資産に対する興味や関心を高めてもらうことを目的としたものです。

世界遺産として登録勧告があった17の縄文遺跡群は、津軽海峡をはさんだ本州北半と北海道島南部の広大な地域に位置しています。この地域は、緑豊かな自然に恵まれ、その恩恵を証明するように数多くの縄文時代の遺跡を見ることが出来ます。

縄文時代の遺跡は、現在の私たちが一見すると、どれも同じような土器や石器、赤土色の世界にしか見えないかもしれません。しかし縄文人は、土や石、骨角や木など、自然から得られる限られた素材から、様々な道具を作り出し、長い時間をかけてゆっくりと歩みを進めて行ったことがわかっています。

津軽海峡を挟んだこの地域には、『円筒土器文化』『十腰内土器文化』『亀ヶ岡土器文化』と呼ばれる個性あふれる生活様式が確立されていきました。縄文人が定住し、周囲のムラや自然とともに生きるという方法を選んだのは、縄文人がたどり着いた知恵です。漁労・狩猟・採集という一見不安定な生業の中から創り出されたさまざまな特徴のある文化は、彼らの知恵の蓄積と経験から生み出されたものでしょう。国宝土偶も美しい土器も偶然の産物ではなく、経験に裏打ちされた技術から生まれたものです。また、縄文人の交易活動は、彼らの情報と活動範囲を広げ、日本文化の基層を育くむことになります。

企画展では、世界史上稀有な先史時代の文化とよばれる縄文文化を、函館市に位置する大船遺跡と垣ノ島遺跡からの出土遺物を中心に、千歳市の「キウス周堤墓群」、伊達市の「北黄金貝塚」、洞爺湖町の「入江・高砂

貝塚」、森町の「鷲ノ木遺跡」など、北海道内の構成資産や関連資産の特徴的な資料を借用し、6月26日（土）から9月26日（土）までの82日間紹介しました。

期間中、東京オリンピックの開催や新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、市民や北海道民中心の観覧となりましたが、熱心な縄文ファンによる賑やかな企画展となりました。

（佐藤智雄）



— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※令和4年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	453件	1,707点
地質鉱物	2,036件	2,936点
植物	10,335件	10,358点
動物	11,130件	24,275点
考古	11,527件	585,117点
歴史	6,223件	22,964点
民俗	7,150件	21,500点
民族	6,364件	12,334点
美術工芸	6,724件	8,102点
合計	61,942件	689,293点

※一部の寄託資料を含みます。

※一括は1件1点と計算しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施しているため、収蔵点数が変動しています。

※北洋資料館旧蔵、戸井・恵山町旧蔵資料は含みません。

令和3年度 新収蔵資料

- 初代渡辺熊四郎像 ほか 4点
【函館市：函館商工会議所 寄贈】
- 人力車 1点
【函館市：羽場静子 寄贈】
- 旧戸井西・日新小学校、旧日新中学校資料 39点
【函館市学校教育委員会学校再編・地域連携課 移管】
- ヘレン・ケラー書簡 1点
【千葉県流山市：植村豊記 寄贈】
- タマワリ、魚粕検査用具 2点
【榎法華教育事務所 移管】
- 徴用令書 ほか 31点
【江別市：宮澤昭二 寄贈】
- 酒谷小三郎「自画像」 ほか 6点
【東京都武蔵野市：八木匡子 寄贈】
- 函館市交通局乗車券 ほか 8点
【札幌市：西谷理恵子 寄贈】
- JR函館駅写真 1点
【函館市：齋藤富士郎 寄贈】
- 旧千代ヶ袋小学校資料 153点
【函館市学校教育委員会学校再編・地域連携課 移管】
- 佐藤俊郎「雲景」 1点
【函館市：星川嘉克 寄贈】
- 「エルム社の絵本 アラビヤナイト アリババと四十人のとうぞく」 ほか 3点
【札幌市：谷暎子 寄贈】

- 蝦夷島奇観 ほか 197点
【札幌市：児玉健 寄贈】
- 絵葉書、征露紀念勲章 ほか 71点
【函館市：霜田玲子 寄贈】
- 旧高盛小学校資料 20点
【函館市学校教育委員会学校再編・地域連携課 移管】
- 旧宇賀浦中・旭中・新川中・大川中学校資料 18点
【函館市学校教育委員会学校再編・地域連携課 移管】
(敬称略)

資料保存

令和3年度は9月27日(月)に、当館1階の貝類標本を保管している収蔵庫の防虫・防カビ処理を行いました。施工面積は40.14㎡で、防虫剤エコムーアFTドライと防カビ製剤ライセンスを4時間空間噴霧しました。

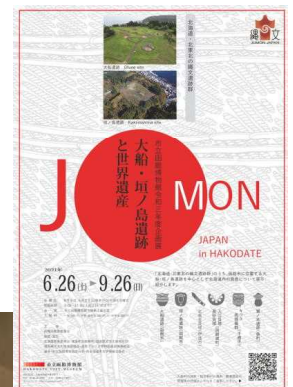
昨年度まで実施していた有害昆虫のモニタリングについては、全収蔵庫のモニタリングを終えたことから実施しませんでした。今後も収蔵庫・展示室等の環境整備を行い、資料保存に努めます。

— 普及（展覧会） —

企画展

■大船・垣ノ島遺跡と世界遺産

令和3年は7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコ世界遺産への登録が決定しました。当館ではこの世界遺産登録に合わせて、函館市に位置する構成資産、大船・垣ノ島遺跡出土資料に加え、北海道内の構成資産・関連資産から出土した資料を交えて、世界遺産に登録された構成資産・関連資産を紹介する展示を行いました。



期 間	令和3年6月26日(土)～9月26日(日)
開館日数	82日
後援・協力	北海道教育委員会・渡島総合振興局・道南歴史文化振興財団・道南縄文文化推進協議会・道南ブロック博物館施設等連絡協議会・市立函館博物館友の会・南北海道考古学情報交換会
出品協力	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター・千歳市教育委員会(埋蔵文化財センター)・伊達市教育委員会(伊達市噴火湾文化研究所)・洞爺湖町教育委員会・森町教育委員会
出品資料	垣ノ島遺跡出土の土器 ほか 897点
観覧者数	3,238名
関連事業	展示解説3回、鹿角で縄文時代の釣針を作ろう、黒曜石で矢じりをつくろう、粘土で縄文時代の土偶をつくろう、北の縄文スタンプラリー
担 当	佐藤

館支庁仮博物館時代に寄贈した資料、日本初の私設貝類博物館を設立した平瀬與一郎や北の貝類研究の先駆者高川金次のコレクションなど、約4,000点の貝類標本を収蔵しています。

今回、このシェルコレクションの中から、函館博物館縁の貝類、北海道、函館で見られる貝類のほか、鳥や動物の名前が付けられた貝類、形のおもしろい貝類を選び、北から南、また外国で採集された貝類を、色や形などを比較しながら見ることができるよう展示しました。貝類のほか、貝細工のひとつ、螺鈿細工の筭や絵画に描かれた貝類も合わせて展示しました。

期 間	令和3年10月7日(木)～6月19日(日、予定)
開館日数	開催中
出品資料	タカガワバイ ほか 280点
担 当	尾崎

常設展・収蔵資料展

■はこだての歩み展(通史・常設展)

第1展示室では引き続き、現代までの函館の歩みを11のコーナーに分けて通史展示を行いました。寅年に因み、蠣崎波響の絵画コーナーでは虎図を展示したほか、展示替えにより樺太警備の様子を描いた会津藩樺太出陣絵巻(函館市中央図書館蔵)などを展示紹介しました。

期 間	通年
開館日数	開催中
出品協力	函館市中央図書館・函館市教育委員会文化財課 ほか
出品資料	ペリー提督寄贈の洋酒びん ほか 255点
担 当	奥野



■函博シェル・コレクション

当館は、古くは大森貝塚発見者で知られるエドワード・S・モースが、1879(明治12)年開場の開拓使函



ロビー展

■金子幸正作品展

令和元年度から令和2年度にかけて、グループ“KANNA”の市民有志5名による資料整理ボランティアの協力を得て、博物館が収蔵していた金子幸正作品の再整理を実施しましたが、令和3年度にはその成果を生かして、金子幸正作品展を開催しました。

デッサン教室を開き、赤光社の副代表を務めるなど、地域で後進の指導にあたった金子幸正氏の教え子など、同氏を知る方が多く来館されました。

期 間	令和3年4月29日(木)～6月25日(金)
開催日数	44日
協 力	グループ“KANNA”の市民有志
出品資料	自画像ほか 25点
担 当	奥野

展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期間	4/1~6/14		6/15 ~ 6/19	6/20~9/26			9/27 ~ 10/6	10/7~3/31				
ロビー	はこだての 古代 担当:佐藤	4/29~6/14 「金子幸正作品 展」 担当:奥野	展示 替え	6/20 ~ 6/24	「北海道・北東北の縄文遺跡群パネル展」 担当:佐藤			ロビー展 「函館の縄文遺跡」 担当:佐藤				
第1展示室	収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当:奥野			収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当:奥野			収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当:奥野					
第2展示室	4/1~6/13 収蔵資料展 「はこだての縄文文化」 担当:佐藤			6/26~9/27 企画展 「大船・垣ノ島遺跡と世界遺産」 担当:佐藤			収蔵資料展 「函館シェル・コレクション」 担当:尾崎					
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科・内田		収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科・内田			収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科・内田						

第1展示室入口 2/26~3/24「雛飾りアラカルト」 担当:保科・内田

令和3年度展覧会開催日数・入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1~6/13,6/20 ~24,10/7~3/31	6/26~9/26	
開催日数	202日	82日	284日
有料入館者	3,595人	2,439人	6,034人
無料入館者	4,003人	799人	4,802人
入館者合計	7,598人	3,238人	10,836人

— 普及（講座） —

令和3年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	春の函館公園・函館山自然観察会	5月15日(土)	外部講師	中止
2	博物館旧1号館公開	5月22日(土)		中止
3	池の中を見てみよう	7月23日(金)	奥野 尾崎	19/20
4	縄文ミュージアムトーク 大船・垣ノ島遺跡と世界遺産 -縄文文化を支えた植物質食料-	7月25日(日)	外部講師 佐藤	40/100
5	夏休み自由研究「大森浜の貝 で標本箱をつくらう」	7月31日(土)	尾崎 奥野	23/15
6	夏休み自由研究「鹿の角で縄 文時代の釣り針をつくらう」	8月1日(日)	佐藤 奥野	10/10
7	夏休み自由研究「黒曜石で矢 じりをつくらう」	8月5日(木)	外部講師 尾崎	15/15

8	夏休み自由研究「粘土で縄文 時代の土偶をつくらう」	8月6日(金)	佐藤 奥野	10/10
9	子ども学芸員になろう!	8月8日(日)	保科・内 田・尾崎	10/10
10	夏休み自由研究「日本画でう ちわづくり」	8月15日(日)	外部講師 奥野	11/10
11	秋の美術鑑賞会 波響をみる	9月11日(土)	奥野	中止
12	アイヌの花ござ編みの技法で コースターをつくらう	10月9日(土)	外部講師 奥野	10/6
13	体験!日本画講座	10月23日・24日、30 日・31日、11月7日・ 14日(土・日)	外部講師 奥野	7/8
14	秋の函館公園・函館山自然観 察会	10月30日(土)	外部講師 尾崎	5/20
15	千島アイヌのテンキ技法でコ ースターをつくらう	11月5日(金)	外部講師 奥野	6/8
16	忘れない!函館大火	3月19日(金)	保科 尾崎	中止

計 166名



講師から説明を受ける受講者(アイヌの花ござ編みの技法でコースターをつくらう 会場:北方民族資料館)

【展示解説セミナー】

No.		開催期日	講師	参加
1	展示解説セミナー	7月7日(水)	佐藤	17
	企画展「大船・垣ノ島遺跡と世界遺産」	8月7日(土)		8
		8月18日(水)		5

計 30名

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数/参加数
1	展示解説	通年	7件 90名
2	バックヤードツアー	通年	2件 24名
3	見せます！お宝公開！	4/1～11/3の開催日	0件 0名
4	函館博物館見学	4/1～11/3の開催日	0件 0名

計 9件/114名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数

■縄文ミュージアムトーク 大船・垣ノ島遺跡と世界遺産 —縄文文化を支えた植物質食料—

7月25日、函館市公民館を会場として企画展開連事業のミュージアムトークを開催しました。当初、北海道と北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に合わせ、令和2年度企画展開催時に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、本年度に順延し、規模を縮小、感染予防対策を取っての実施となりました。講師には、東北大学名誉教授で元史跡垣ノ島遺跡復元整備検討委員会副委員長の鈴木三男氏を迎え、「縄文文化とクリ」をテーマに約3時間にわたって縄文人と植物の利用についてお話いただきました。

旧石器文化から縄文文化へと移っていったきっかけは「クリ」という植物の利用で、DNA分析から北海道のクリは北東北から持ち込まれたものであること、「クリ」が日本各地の縄文文化遺跡の調査から、食料・道具の材料・建築の部材などとして幅広く利用されていたことが分かってきたこと、中でも、北海道・北東北地域では、居住区域（ムラ）での栽培はもちろん、周辺の森を計画的に伐採し、50年、100年先のムラ（一族）の未来を見据えた施行計画がなされ、管理栽培がなされていたことなどが紹介されま

した。

北東北・北海道地域では、人が森に働きかけて互いの環境を整えながら、地域色豊かな円筒土器文化、十腰内土器文化、亀ヶ岡土器文化を育み、持続可能な社会を構築しましたが、世界遺産となった遺跡群は縄文文化を代表する資産であるとの内容に、参加者は熱心に聞き入っていました。

協力機関等

函館市住宅都市施設公社、鈴木三男、佐藤理夫、安積徹、宮本雅通、信太成子、平田篤史（順不同・敬称略）

— 調査・研究 —

研究論文・コラム等

- 奥野進「函館のパノラマ写真」『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて』公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 2022年3月2日発行
- 奥野進「蝦夷絵について—もうひとつの「蝦夷絵」—」『市立函館博物館研究紀要』32 市立函館博物館 2022（電子版）
- 保科智治「館蔵「吉田元利関係資料」の紹介—函館の初期教育界に関わる人物について—」『市立函館博物館研究紀要』32 市立函館博物館 2022（電子版）

【道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿】

- ・内田彩葉「資料紹介「THE ILLUSTRATED LONDON NEWS」」
- ・保科智治「いまさらですが……」
- ・奥野進「資料が資料を呼ぶ？ 不思議な資料の巡り合わせ」

研究発表等

- 第5回 ジオ・フェスティバル in Hakodate ジオ散歩 函館山の麓で縄文の渚を歩こう（令和3年8月8日）案内・講師（佐藤）
- 函館市亀田老人大学 「大船遺跡・垣ノ島遺跡にみる縄文文化と世界遺産」（令和3年6月29日）講師派遣（佐藤）
- 函館市高齢者大学青柳校 「函館の縄文文化と世界遺産」（令和3年7月1日）講師派遣（佐藤）



- 函館市高齢者大学湯川校 「函館の縄文文化と世界遺産」(令和3年7月21日) 講師派遣(佐藤)
- 人権擁護委員会研修「函館からアイヌ史を考える」(令和3年7月27日) 講師派遣(奥野)
- 北海道博物館協会ミュージアムマネジメント研修会 「インターネットでの情報公開と著作権」(令和3年10月26日) オブザーバー参加(奥野)

印刷物発行

- 収蔵資料展示図録『箱館戦争』市立函館博物館
令和3年6月20日発行 63頁
- 『市立函館博物館研究紀要』32(電子版) 市立函館博物館 2022 令和4年3月31日発行

— 協力事業等 —

協力事業

【資料貸出】

- 市立函館博物館郷土資料館常設展示 本館所蔵、明治期の歴史・民俗資料等を展示
- 函館市北方民族資料常設展示 本館所蔵、アイヌ・北方民族資料等を展示(12月展示替え)
- 函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」 本館所蔵、挿し絵・彫塑等を展示
- 函館市北洋資料館常設展示 本館所蔵、北洋漁業関係資料を展示
- 函館市戸井西部総合センター展示コーナー 本館所蔵、戸井の板碑・土器・石器等を展示
- えさん小学校展示コーナー 本館所蔵、恵山地区出土の土器・石器等を展示
- 箱館奉行所常設展示(平成22年7月28日～) 本館所蔵「エンフィールド銃」ほか 計6点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示(平成28年4月1日～) 本館所蔵「ヤス」ほか 計112点貸出
- 函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪—函館空港遺跡群と北の縄文文化—」(平成28年4月4日～令和3年4月2日) 本館所蔵「伊藤コレクション」ほか 計14点貸出
- 北海道渡島総合振興局主催「北海道の文化」(令和3年4月21日～7月31日) 本館所蔵「土偶」ほか 計43点貸出
- 北海道立函館美術館「没後50年 田辺三重松展」(令和3年4月24日～9月26日) 本館所蔵「パレット」ほか 計8点貸出

- 岩手県立博物館 開館40周年記念特別展「みる！ みる！わかる！三陸再発見」(令和3年6月12日～令和3年8月22日) 本館所蔵「西桔梗E₂遺跡墓壇出土土器」ほか 計3点貸出
- 北海道博物館 第7回特別展「あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」(令和3年6月1日～10月8日) 本館所蔵「チョウザメ皮製の刃物鞘」1点貸出
- 松前町郷土資料館企画展(令和3年7月6日～12月24日) 本館所蔵「土偶頭部(上川遺跡)」1点貸出
- 江別市郷土資料館(セラミックアートセンター)「市立函館博物館 花光コレクション展」(令和3年7月3日～8月29日) 本館所蔵「蠣崎波響筆《夢蛤美人図》」ほか 計91点貸出
- 函館市恵山教育事務所(恵山コミュニティーセンターで展示)「恵山町の縄文と世界遺産」(令和3年7月28日～) 本館所蔵「日の浜遺跡出土品」ほか 計14点展示



恵山コミュニティーセンターの展示

- 函館市榎法華教育事務所 「榎法華の縄文と世界遺産」 本館所蔵「日の浜遺跡出土品」ほか 計24点展示
- グループKANNA「金子幸正作品集出版記念展」(令和3年8月19日～8月23日) 本館所蔵「ボールを持つ少年」ほか 計15点貸出
- 北海道博物館・群馬県立歴史博物館 令和3年度アイヌ工芸品展「アイヌのくらし—時代・地域・さまざまな姿」(令和3年10月16日～令和4年3月6日) 本館所蔵「五弦琴」ほか 計10点貸出
- 函館市教育委員会生涯学習部文化財課 企画展「祝 世界遺産登録！北海道・北東北の縄文遺跡群」(令和3年12月7日～令和4年1月24日) 本

館所蔵「梁川町遺跡出土品」 計7点貸出

- 北海道立函館美術館 特別展「美術をまるごと楽しもう！」(令和3年12月25日～令和4年4月10日) 本館所蔵「パレット」ほか 計14点貸出
- 東京都写真美術館「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」(令和4年3月2日～5月8日) 本館所蔵「奥州箱館之図」ほか 計20点貸出
- 国立アイヌ民族博物館 第2回テーマ展「地域からみたアイヌ文化展 白老の衣服文化」(令和4年3月15日～5月15日) 本館所蔵「色裂置文衣」ほか 計2点貸出

【収録・出演】

- 「市立函館博物館の資料管理」(道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和3年度総会・研修会)(令和3年6月30日、福島町) 事例報告(内田)
- 企画展「大船遺跡・垣ノ島遺跡と世界遺産」紹介(令和3年7月30日) 収録(佐藤)
- FMいるか 企画展「大船遺跡・垣ノ島遺跡と世界遺産」紹介(令和3年8月20日) いるか号中継(佐藤)
- NHKニュース 企画展「大船遺跡・垣ノ島遺跡と世界遺産」紹介(令和3年7月21日) 収録(佐藤)
- 文化庁「北海道・北東北の縄文遺跡群」プロモーションビデオ制作協力(令和3年10月28・29日)(佐藤)
- FMいるか「オトノハにのせて」角偶の紹介(令和4年3月2日) 電話出演(佐藤)

【会議出席等】

- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和3年度第1回役員会(令和3年4月28日、福島町) 出席(奥野・内田)
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和3年度総会・研修会(令和3年6月30日、福島町) 出席(熊谷・奥野・内田)
- 令和3年度北海道博物館協会第2回役員会・第59回北海道博物館大会(令和3年7月14日、白老町) 出席(熊谷)
- 令和3年度第1回国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会(令和3年7月27日、オンライン) 出席(奥野)
- 北海道博物館協会 第2回あり方検討委員会(令和3年9月3日、オンライン) 出席(奥野)
- 令和3年度北海道博物館協会ミュージアムマネージメント研修会(令和3年10月26・27日、函館市) 出席(奥野・内田)
- 令和3年度「アイヌ文化でつながる博物館等ネッ

トワーク」研修会(令和3年11月25日、オンライン) 出席(奥野)

- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和3年度第3回役員会(令和3年12月23日、江差町) 出席(奥野)
- 北海道博物館協会 第3回あり方検討委員会(令和4年3月10日、札幌市) 出席(奥野)
- 令和3年度第2回国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会(令和4年3月19日、白老) オンライン出席(奥野)

【後援】

- 函館アイヌ協会主催「イチャルパ(先祖供養の儀式)」(令和3年10月16日) 後援

【その他】

- 渡島総合振興局 汐泊川流域の縄文遺跡と観光資産関連事業への協力(佐藤)
- 道南縄文プロジェクト「縄文パネル」「世界遺産パネル」制作への協力(佐藤)
- 縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会『北海道・北東北の縄文遺跡群まるごとナビ』制作への協力(佐藤)
- オリジナルフレーム切手セット「函館の縄文遺跡」「函館の世界遺産」制作・監修・解説協力(佐藤)
- 函館市中央図書館での出張展示
令和3年度は、函館市中央図書館での2件のロビー展示に取り組みました。4月30日から「縄文時代の函館と食糧」と題し、戸井貝塚の貝層や調理器具としての早期から晩期までの土器・石器などを展示し、9月15日からは函館出身の画家・岩船修三の作品のなかから、アイヌの人びとが伝えてきたユーカラ(叙事詩)を題材した作品を選んで展示しました。(佐藤・奥野)



図書館でのロビー展示

資料利用・調査・掲載等

■考古資料（「北海道志海苔中世遺構出土銭」等）	39件
■歴史資料（「戦友姿絵」等）	52件
■民族資料（「蝦夷錦」等）	49件
■美術資料（「落下コロポックル人の図」等）	18件
■自然資料	3件
■民俗資料	0件
■博物館史資料	0件
■その他	0件
合計	161件

博物館実習

新型コロナウイルス感染症予防のため、当初の日程等を変更し、前半、後半に分けて、博物館実習生を受け入れました。北海道大学水産学部6名が、前半4名（令和3年9月1日～9日、実日数6日間）、後半2名（9月28日～10月3日、実日数5日間）で実習に取り組みました。例年より大幅に少ない日数でしたが、主に収蔵資料の整理、収蔵資料展「函博シェルコレクション展」の展示実習を行いました。



「函博シェルコレクション展」展示の様子

企画展「大船・垣ノ島遺跡と世界遺産」の一環として、両遺跡のドローン動画を撮影し、展示室で放映しました。

動画は、「函館市と函館工業高等専門学校の相互協力協定」に基づいて行ったもので、函館工業高等専門学校ドローン研究センターの協力を得て撮影したものです。

北の縄文スタンプラリー

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産への登録を記念して、北海道内の構成資産及び関連資産を中心とした縄文関連展示施設を巡るスタンプラリーが開催されました（7月17日～10月31日）。北海道環境生活部主催の事業で、当館も参加しました。

各館では、ミュージアムカードを配布しましたが、当館では、「角偶」と「イノシシ型土製品」の写真入りのカードを配布しました。



スタンプ(印影)とミュージアムカード



オリジナルバッジ配布

函館市に位置する大船・垣ノ島遺跡の世界遺産への登録を記念して、10種類のオリジナル缶バッジを作成し、数量限定で来館した小学生に配布しました。

バッジのデザインには、一般財団法人道南歴史文化振興財団の許可・協力を得て、函館市縄文文化交流センターのPRキャラクター「どぐろ館長」を使用しました。



オリジナル缶バッジのデザイン

— 博物館短信 —

ドローン動画の作成



作成したドローン動画

人権啓発活動への協力

アイヌの人々に対する理解と認識を深め、偏見や差別の解消を目指して、啓発用のオリジナル・クリアファイルを入館者に配布しました（11月16日～3月27日）。この事業は、函館地方法務局・函館人権擁護委員連合会の人権啓発活動の一環で実施したもので、アイヌ文化への理解を深めていただくために、関連展示のある市立函館博物館および函館市北方民族資料館での配布となりました。

図案には、当館が所蔵する八雲町のアイヌ民族資料などが使用されました。

（好評につき、同連合会から追加配布を受け、令和4年度も継続して配布します。なくなり次第終了予定）



配布したクリアファイル それぞれ、(左)市立函館博物館、(右)函館市北方民族資料館で配布したもの

北海道デジタルミュージアム

令和4年3月22日から、北海道の「知の入口」として、博物館や美術館等の情報を横断的に発信する「北海道デジタルミュージアム」の公開がはじまりました。当館では、すでに独自のデジタルアーカイブサイト「市立函館博物館デジタルアーカイブ」を構築し、公開していますが、「北海道デジタルミュージアム」にも参加し、指定文化財を中心とした33件の資料を紹介しています。

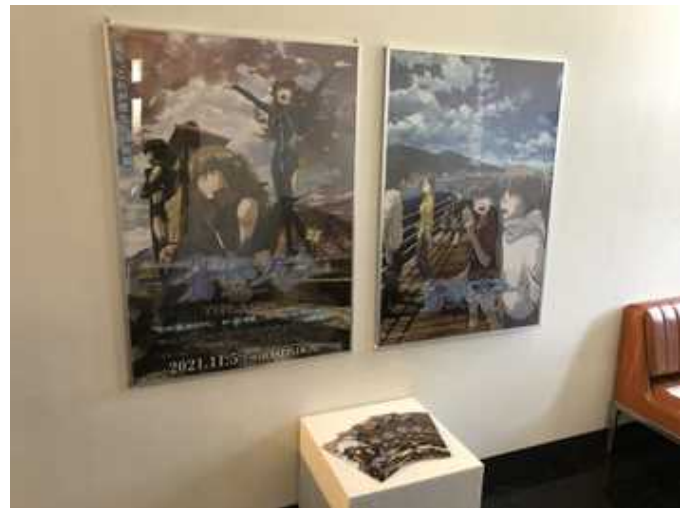


公開がはじまった北海道デジタルミュージアム

蒼穹のファフナーポスター展示

「蒼穹のファフナー THE BEYOND」のポスターを掲示しています。アニメの舞台となっている孤島・海神（わだつみ）島のモデルが函館となっており、作中の羽佐間家住宅は、旧函館博物館2号がモデルとなっていることに因んだものです。

「蒼穹のファフナー」シリーズは、2004年7月から放送されたテレビアニメで、少年少女たちが人型兵器“ファフナー”に乗りこみ“フェストゥム”と呼ばれる未知の存在と命をかけて戦う姿を描いたSF作品です。シリーズ15周年を迎えた2019年に、完全新作「蒼穹のファフナー THE BEYOND」全12話の劇場先行上映がスタートし、11月5日からは物語のクライマックスとなる第10話から第12話までが上映されました。



資料移動

令和3年度は、当館所蔵の大型資料および戸井地区の埋蔵文化財資料を、廃校となった旧戸井西小学校体育館に移動しました。

博物館本館の収蔵スペースの狭隘化と戸井地区の旧埋蔵文化財展示館（戸井幼稚園を転用）、旧戸井郷土館の建物の老朽化にともなう措置で、施設廃止後も両館で収蔵していた埋蔵文化財を移動したものです。

両館には、合併前の戸井町で行われた発掘調査による出土資料（箱詰資料約6,000箱・復元個体土器約1,500個）を保管していましたが、平成30年度より順次梱包するなど、移動に向けた作業を継続的に行っていました。対象となった遺跡は、戸井貝塚、浜町A遺跡、蛭子川1遺跡、蛭子川2遺跡、釜谷2遺跡、高屋敷1遺跡などで、新しい環境のなかで、移動した資料の再整理を行っています。



戸井地区の埋蔵文化財の整理作業には、博物館実習生も参加しました。

れらを生んだ時代や当時の箱館（函館）をあわせて紹介します。



平沢屏山の代表作「アイヌ風俗十二ヶ月屏風」(7月化～12月)

イチャルパ

令和3年10月16日、当館が保管するアイヌの方々のご遺骨の慰霊のため、函館アイヌ協会主催による「第6回函館イチャルパ」（先祖供養の儀式）が当館横の広場で実施されました。

今回も、函館アイヌ協会の指導もと、祭壇や祭祀用具などに用いるカワヤナギ伐採などを行い、同協会と協力しながらの開催となりました。

令和4年度企画展開催予告

■ 企画展「平沢屏山とその時代」(令和4年6月28日～10月16日)

近年、北海道を含む日本北辺の先住民族アイヌの人びとやその文化に対する関心が高まりを見せています。函館は、馬場コレクションや児玉コレクションといったアイヌ民族の生活道具などにかかる著名なコレクションを所蔵していますが、同時に「アイヌ絵」と呼ばれる絵画の一大集積地でもあります。

2022年（令和4年）は、箱館（函館）で活躍した著名なアイヌ絵師、平沢屏山の生誕200年にあたることから、函館市等が所蔵する作品を一堂に集め、そ

■ ロビー展「市政100年記念 写真でたどる函館の百年」(令和4年7月8日～10月16日)

1922年（大正11年）8月1日、函館・札幌・小樽・旭川・釧路・室蘭で市政が施行されました。2022年（令和4年）は、市政施行から100年目にあたりますが、この100年の歩みを写真と資料で振り返るロビー展を企画しています。

令和3年度職員構成等

館長 熊谷 正 ————— 博物館協議会(委員11名)

管理担当	学芸担当
三浦正志（主査）	奥野 進（主査、美術・民族）
萩野千春	保科智治（歴史・民俗）
小林政人	内田彩葉（歴史）
（会計年度任用）	尾崎 渉（自然）
田島公聖	佐藤智雄（考古）
（会計年度任用）	山本泰子（会計年度任用）

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

- 天野武春（主査）
- 長谷川佳代子
- 佐藤珠江（会計年度任用）
- 福本衣栄（会計年度任用）
- 奥山麻央（会計年度任用）

SARANIP—サラニップ— No. 61

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP(サラニップ)—
 アイヌ語：樹皮を編んで作った袋
 博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、
 その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名
 したものです。